

土地利用の推進（企業誘致・大場地区区画整理）

アナ： 「市長が語る2025三島」第24回の今日は、「土地利用の推進」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 現在、三島市では企業誘致に向けた土地利用に力を入れているそうですが、それにはどのような狙いがあるのでしょうか。

市長： はい。近年、地方から首都圏への若年層の人口流出が続いているのですが、その要因として、地方ではやりがいのある魅力的な働く場が不足していることが挙げられております。このため、三島市では積極的に企業誘致を推進し、若者に選ばれるまちづくりに取り組んでおります。

現在、市内の既存企業におかれましても、三島を重要な製造拠点として捉えていただき、「横浜ゴム」さんが南二日町で生産施設の増設工事、「伊藤ハム米久ホールディングス」さんが安久で工場の建て替え工事に取り組んでいただいており、新たな雇用の創出が見込まれております。

また、ファンケル美健さん、森永製菓さんをはじめとした多くの企業の皆様に、ふるさと納税の返礼品の出品にご協力いただき、全国への三島のPRにも貢献いただいているところです。

こうした市内の既存企業の皆様の取組に加え、企業誘致に必要な産業用地を創出し、さらなる産業振興、地域活力の向上につなげたいと考えております。

アナ： 三島市が持続的に発展していくために、企業を誘致することはとても重要ですね。

市長： はい。特に、東駿河湾環状道路のインターチェンジ周辺において産業用地の整備を進めており、三ツ谷工業団地におきましては、ワインボトル入り高級茶を製造する「ロイヤルブルーティージャパン」さんの工場が今年4月に、感染症の診断キットを開発・製造する「タウンズ」さんの工場が5月に竣工しております、共に今年度中の操業開始が予定されております。

また、玉沢地区では、医療機器の開発・製造を行う「東海部品工業」さんの進出も決定しております。

その他、大場地区におきましても、新たなプロジェクトが計画されております。

アナ： 計画中の大場地区のプロジェクトは、具体的にどのようなものなのでしょうか。

市長： 東駿河湾環状道路大場・函南インターチェンジに隣接する、県立三島南高校南側の約19.3haのエリアにおいて、土地区画整理事業による企業誘致等を目的とした新たな土地利用が計画されています。

令和5年4月には、地元地権者により「三島市大場地区土地区画整理準備組合」

が設立されまして、令和6年9月には、戸田建設さんが業務代行予定者として参画しております、現在、具体的な事業計画の検討が進められております。

スケジュールとしましては、令和8年度末にこのエリアを市街化区域に編入して、その後、造成工事に入り、令和12年度頃の造成完了が見込まれております。

三島市といたしましても、この新たな土地利用の早期実現に向け、全力で後押しをしているところであります。

アナ： 一大プロジェクトですね。この規模の産業用地はなかなかないのではないかと思います。

市長： はい。三島市では、企業からの引き合いがあっても、お応えできる産業用地が限られているのが悩みの種でございますが、今後も産業用地の創出に尽力し、三島の持続的発展につなげてまいります。

アナ： 三島市が元気なまちであり続けるには、働く場をつくる企業誘致が重要で、そのための土地利用に尽力されていることがよく分かりました。

豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。